

7 アートの計画

アートは空間を特化させ豊かにする。アートを置くことでその場所・空間はアイデンティティを獲得する。また、サイン計画とも深く関係する。

大学は知的創造の場である。それをアートは端的に示すことができる。本学は芸術分野を有しており、多彩な才能を生かして豊かなキャンパスづくりが可能である。以下に述べるシナリオに沿って、キャンパスのアート計画を進める。

○屋外のアートの設置場所

屋外のアート設置については、二つの軸が考えられる。一つはキャンパスを南北に貫くペデ、もう一つはループ道路である。この二つの軸の顕在化は、分かりやすいキャンパスづくりに重要である。

ペデは歩行者を中心とする空間であり、比較的小型の作品をリズムが感じられる間隔で配置する。しかし、図書館前の広場等は大型の作品を配置したり、作品の密度を高める。いくつかある池もアートの設置場所の候補とする。

ループ道路は自動車の視線を前提に、比較的大型作品を道路の結節点に配置しランドマークとしての機能を担う。またフットライトのような光のアートをループ道路に一定間隔で設置し、その連続性によって他の道路と差別化を図ることも考え得る。

いずれの場合も建築との関係や空間の規模等、その場に相応しいアートを計画する。

○屋外のアートの種類

石彫・ブロンズ像・レリーフ・壁画など一般的芸術作品に加え、ミクストメディア、短期間のインсталレーション、造園・特殊な植栽・噴水、ガラス・陶芸のようなクラフト作品など、種類にこだわらず広くアートを考える。さらにベンチ・サイン・バス停のシェルターなど各種のストリートファニチュアもその質によつては十分アートと見なすことができる。

○屋内のアートの設置場所

屋内のアートの設置は、食堂、大学会館、図書館など公的性格が強い施設から始める。病院や本部などの施設もこれに準じる。

しかし、基本的には学群・学系棟を問わずあらゆる施設にアートは必要であり、学生宿舎の共用空間、体育館などにも必要であることを確認しておきたい。人間的空間づくりにアートは欠かせない。

○屋内のアートの種類

屋外に比べ一層広い作品をアートと考えることができる。学長ロビー入り口の生け花などもアートと考えられる。空間のアイデンティティを高め、豊かにするものは全てここではアートと考えてよい。このように広く捉える際の留意点は作品のクオリティの維持である。公的性格が強い場所ほど高質の作品が求められる。

○アート計画のシステムづくり

アートの企画、作品の選定・依頼、設置・管理、更に更新まで一貫して関わる組織を作るべきである。芸術の専門家や建築・環境デザインの専門家も参画した全学的な組織が望ましい。

ペデ沿いに教員・学生の作品、光のアート、動く彫刻の設置

石の広場にモニュメント



農林センターにアートの様な風力発電



ペデ沿いに教員・学生の作品



ペデ沿いにアートな照明



エリアをシンボライズする彫刻



芸術活動の場の充実

芸術学系棟周辺を
ミューズガーデン
等を含めた
アーツガーデンに



キャンパスの要所に大きなモニュメントの設置



構内ループ道路の
要所にランダムマー
クにもなる背の高い
作品を設置

屋外アート配置図



学生宿舎に楽しいオブジェの設置



エリアをシンボラ
イズする彫刻

居住施設に楽しい
トレリス遊具



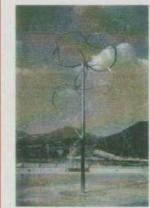
キャンパスの入口を顕在化させる
旗(85カ国留学生全員の国旗)



正面玄関
アートな
サイン



動く彫刻の設置



屋内アート



現状

食 堂

アートを取り入れ
明るく暖かい空間
に



改修イメージ



現状

大 學 会 館

特別展示等が容易
にできるギャラリ
ーの設置



改修イメージ



現状

図 書 館

パブリックなスペ
ースを質の高い空
間に



改修イメージ



現状

病 院

心を癒すホスピタル
ギャラリー



改修イメージ



現状

本 部 棟

パブリックなスペ
ースを質の高い空
間に



改修イメージ



学生作品や研究成果
を展示するミニギャ
ラリー



改修イメージ

ペデ沿いの
小 さ な
ギ ャ ラ リ